

研究所年報 巻頭の言葉

和漢医薬学総合研究所は、前身の旧・富山大学薬学部附属和漢薬研究施設時代を含めて創設 54 年が経ちました。研究所は、設立当初より①和漢薬材料としての天然物資源を研究する資源開発部門、②和漢薬が適用される病態と適用による病態変化に関する機構等を研究する病態制御部門、③和漢薬の臨床効果の評価から適切利用を研究する臨床科学部門の 3 部門を中核とした組織体制で「和漢薬の学理」を追求し、我が国の和漢薬研究をリードしてきました。創立から半世紀の時を経た今日、社会環境や生活環境の激変、更には高齢者人口の急増などで人類の疾病構造も大きく変わり、生活習慣病、ストレスに密接に関連したアレルギー性疾患や精神疾患、認知症やサルコペニアなど高齢者特有の心身の虚弱化した疾病など、所謂西洋薬でも克服困難な数多くの医療問題が現出してきました。このような背景により、社会から和漢薬医薬学研究に寄せられる期待と求められる役割は以前にも増して大きくなっております。

天然生薬を用いる和漢薬などの伝統薬は、複雑な天然薬物成分から構成されることを特徴とし、その有効性、作用メカニズム、詳細な体内動態等の解析に関する研究戦略や方法論は、今日のめざましい生命科学や情報科学の技術進歩により飛躍的に進化してきました。本研究所は、新しいアイデアと先端的技術を駆使し、「和漢薬の多成分・複雑系」、「和漢薬の治療対象とする病態の複雑系」、さらにはそれら「複雑系の相互作用」を主な研究対象として、『和漢薬の複雑系の科学的理解と解明をめざす研究』を目標に掲げ、社会からの要請に応えるよう邁進します。この目標達成に向け、研究所教員は、大学を挙げての協力・支援を得つつ、新たな研究ミッションの設定、研究組織の改編、国内外の研究機関や研究者コミュニティとの連携強化等を実施し、研究機能の強化を図る所存です。つきましては今後とも皆様方から一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 4 月 1 日

和漢医薬学総合研究所 所長 松本欣三